

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長
(公印省略)

病害虫発生予察技術情報について

令和6年度 病害虫発生予察技術情報第 14 号を公表しましたので送付します。

令和6年度 病害虫発生予察技術情報第 14 号

カンシャコバナネナガカメムシ(ガイダー)の防除適期について

カンシャコバナネナガカメムシはサトウキビの葉鞘や梢頭部に潜み、集団で吸汁加害する。株出し栽培で被害が多く、多発すると 20%以上減収する事がある。1茎当たり虫数が 20 頭を超えるほ場では防除適期を失しないよう注意する。

1 防除適期予想日

- (1) 沖縄本島中南部における3月上旬の調査の結果、茎当たり虫数は 0.5 頭（前年 2.3 頭、平年 1.0 頭）と少発生であった。齢期は3月6日時点で 2.7 齢であった。
- (2) 宮古島における3月上旬の調査の結果、茎当たり虫数は 0.1 頭以下（前年 4.4 頭、平年 1.5 頭）と少発生であった。 齢期は3月7日時点で 2.0 齢であった。
- (3) 石垣島における3月上旬の調査の結果、茎当たり虫数は 0.1 頭以下（前年 0.1 頭以下、平年 1.5 頭）と少発生であった。 齢期は3月7日時点で 1.0 齢であった。

(4) 防除適期予想日(3月 25 日現在)

地 域	防除適期	2.5 齢期予想日		
		本年	平年	平年差
沖縄本島及び周辺諸島	4月 17 日 ～ 5月 2 日	4月 24 日	4月 21 日	3日遅い
南・北大東島	4月 13 日 ～ 4月 28 日	4月 20 日	4月 17 日	3日遅い
宮古島及び周辺離島	4月 9 日 ～ 4月 24 日	4月 16 日	4月 12 日	4日遅い
石垣島及び周辺離島	4月 2 日 ～ 4月 17 日	4月 9 日	4月 6 日	3日遅い
与那国島	4月 6 日 ～ 4月 21 日	4月 13 日	4月 9 日	4日遅い

* 2/1～3/24 は観測値、3/25～4/18 は1 ヶ月予測値。4/19 からは平年値を使用（沖縄気象台発表）。

2 生態

- (1) 集団で葉鞘や梢頭部に潜み吸汁加害する(図1)。
- (2) 年2～3回発生し、成虫ないし卵で越冬する。
- (3) 成虫には長翅型と短翅型(図2)がある。長翅型は高温・高密度で出現し、夏から秋にかけて移動分散を行う。
- (4) 前年の秋、冬に産み付けられた卵は3～4月にふ化し、第1世代目となる。
- (5) おおむね4～6月が第1世代、7～8月が第2世代、9～10月に第3世代が発生する。

3 防除上注意すべき事項

- (1) 茎当たり虫数が 20 頭を超えるほ場(図1)は防除を行うことが望ましい。
- (2) 薬剤防除の際は、周辺住宅地や隣接ほ場に薬剤が飛散しないよう風向きに注意する。



図1 集団で吸汁加害する1齢幼虫



図2短翅型成虫と長翅型成虫

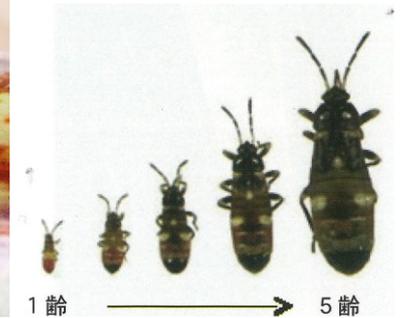


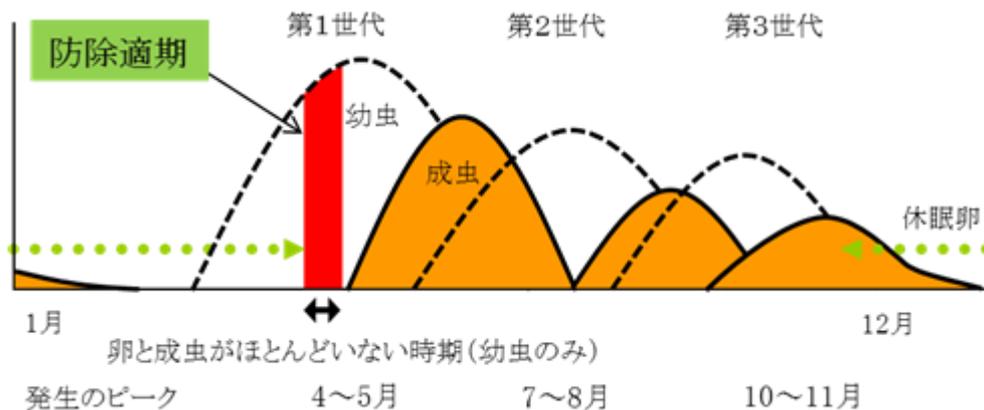
図3 幼虫
(1、2 齢幼虫が多い時期が防除適期)

【参考資料】

1. 防除適期とは

カンシャコバネナガカメムシの防除は、農薬の効果が低い卵や成虫が少ない時期が最適である。卵は2月下旬頃からふ化し始め、4月中旬から下旬にほとんどふ化が終わる。この数週間は成虫が少なく、さとうきびの草丈も低いいため農薬散布に適している。

下の図の赤い部分が若齢幼虫(図3左側)が多く最も薬剤散布に適した時期である。これは卵がすべてふ化する時期を予測することで算出される。2月1日を起点として、日平均気温が13℃を上回った温度(2月1日が16.4℃だった場合は3.4℃)を累積し、480℃を超えた日が防除に最適の日となる。その前後1週間が防除適期に含まれる。また、この予想日に発生する幼虫の齢が平均2.5になるため、予報資料では「2.5 齢期予想日」という表現になっている。



2. 要防除密度

4月中～下旬の防除適期に発生量を確認し、一茎当たり 20 頭以上のカンシャコバネナガカメムシが確認された場合は、農薬散布を行う。

★詳しくは沖縄県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★

TEL : (本所) 098-886-3880、(宮古駐在) 0980-73-2634、(八重山駐在) 0980-82-4933

ホームページアドレス : <https://www.pref.okinawa.jp/shigoto/nogyo/1010700/index.html>

